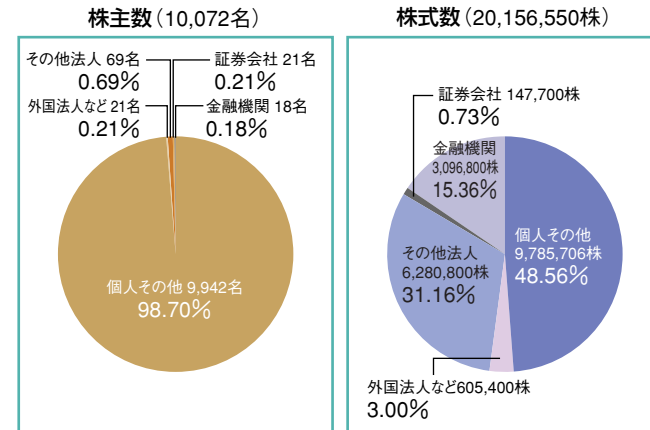


株式の状況 (平成17年9月30日現在)

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
1. 三井物産株式会社	2,566,000	12.73
2. 株式会社小松製作所	1,820,000	9.03
3. 株式会社クボタ	1,200,000	5.95
4. 山村 章	803,400	3.99
5. 株式会社東京三菱銀行	420,000	2.08
6. 住友信託銀行株式会社	400,000	1.98
7. 日興シィ信託銀行株式会社(投信口)	373,600	1.85
8. 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	353,500	1.75
9. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	309,800	1.54
10. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	304,800	1.51

所有者別株式分布状況



(注)自己株式240,144株は上記の円グラフ中の株主数・株式数に含まれていません。



株式会社 フェローテック

〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14
 TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848
 URL <http://www.ferrotec.co.jp>

フェローテックは環境方針に基づき環境保全活動を積極的に推進しています。

株主メモ

決算期 3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 株主確定 3月31日
 利益配当金 3月31日

1単元の株式数 100株
 名義書換代理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

同事務取扱場所 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付および電話照会先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417

同取次所 住友信託銀行株式会社
 本店および全国各支店

ウニのかくれんぼ
 ダイナミック・フルイド展
 科学技術館2005年12月3日(土)~17日(土)



©2005 Sachiko Kodama Studio & Lab + Takeno

当社では磁性流体の不思議な性質を生かしたメディア芸術家児玉幸子さんによるアート展覧会に協賛しております。

児玉幸子プロフィール/北海道大学理学部卒、筑波大学芸術学研究所博士課程修了。電気通信大学講師。コンピュータや新素材を使ったメディア芸術の分野で活動。文化庁メディア芸術祭インタラクティブ部門大賞をはじめ多くの賞を受賞し、海外でも高い評価を得ている。

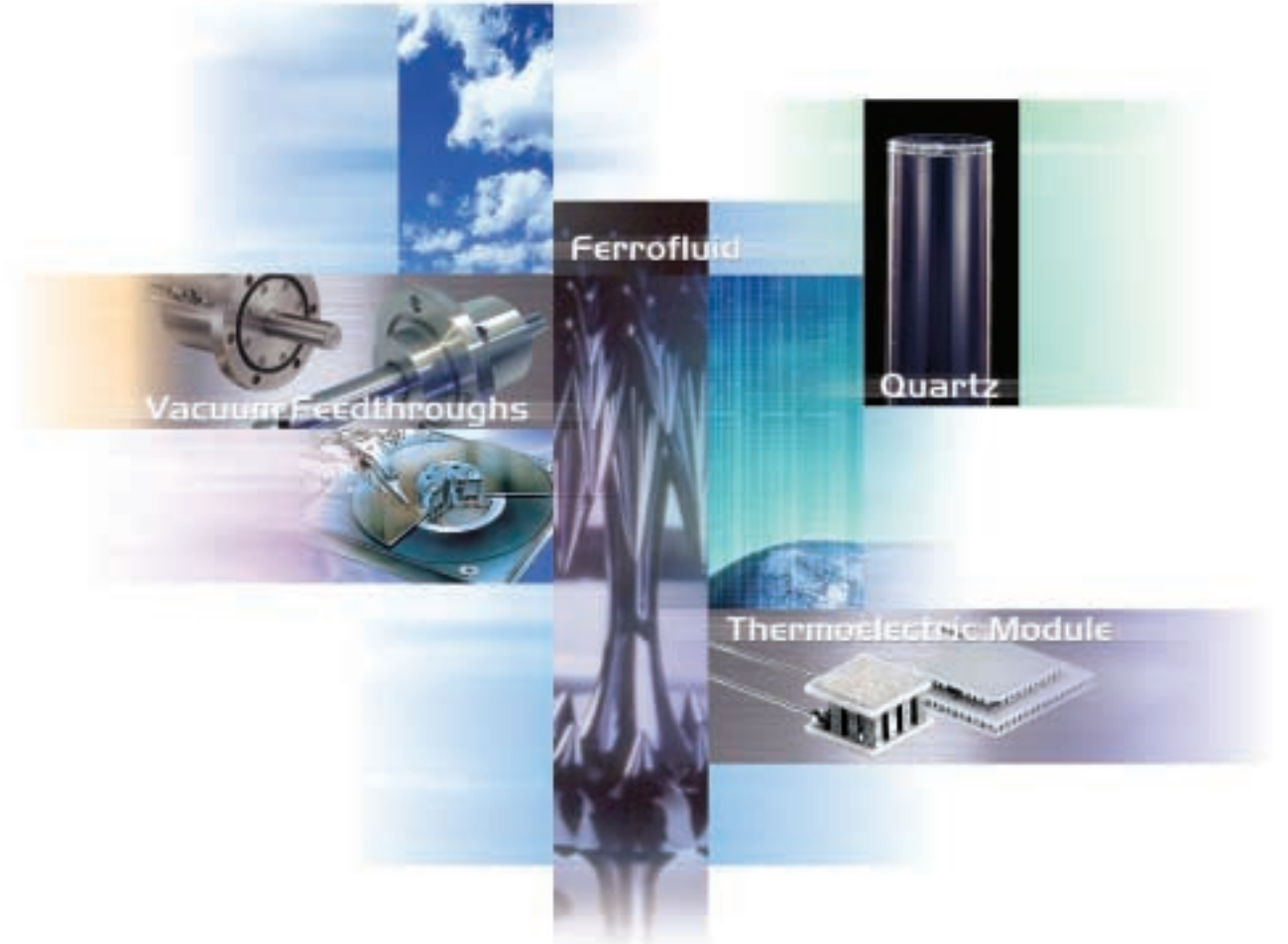
<http://cosmos.hc.uec.ac.jp/protrudeflow/index.html>



第26期中間事業報告書

平成17年4月1日~平成17年9月30日

証券コード：6890



株式会社 フェローテック



TOP INTERVIEW

次期主力製品〈サーモモジュール〉の用途拡大と磁性流体の新規需要の拡大をめざす

代表取締役社長 山村 章

Q1 前期に黒字転換をはたし 今後への期待が高まりましたが、 当中間期の概要をご説明ください。

売上面では中間期の業績予想を上回りましたが、営業利益面で伸び悩みました。これは主力となる装置関連事業で少量多品種製品の受注が増えて一時的に生産効率が低下したことと、電子デバイス事業で利益への貢献度が高かったコンピュータシールの需要が少なくなり、計画のとおり減少したことによります。これに替わるFFB（磁性流体動圧軸受）の研究開発費が継続して発生していることなどが要因となっています。また、当社の石英製品や真空シール、サーモモジュールなどの製品に深く関わる半導体業界が調整局面にあり、活発な商いに発展しなかったことも影響しています。しかし、半導体業界は米国を中心としてこの秋口から需要に動きがでてきました。製造装置へ部品を供給する当社への波及はやや遅れるかたち

となりますが、下期以降の需要の高まりを期待しております。

Q2 新規事業である〈CMS事業〉と次期主力製品と目される〈サーモモジュール〉の動向についてお聞かせください。

CMS事業は、中国における生産能力と当社のオペレーションノウハウを生かした受託生産事業です。現在、コストと品質、スピードでグローバル市場を勝ち抜くためのビジネスモデルを形成しつつあります。現

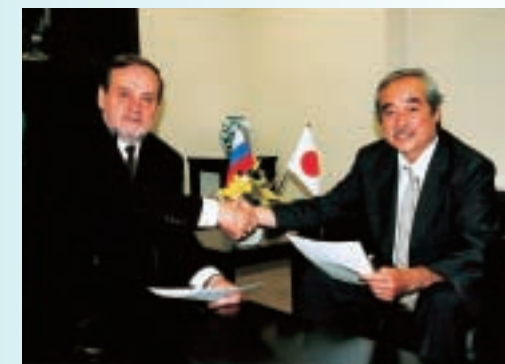
段階では先行投資が続いていますが、シリコンウェーハ受託加工、フラットパネルディスプレイ等の製造装置洗浄、工作機械製造を事業の柱として着実に利益を上げてまいります。今後も経済面で日本と中国は相互に強い関係を持ちながら発展して行くと考えておりますし、当社の中国子会社は現地に根をおろす企業として成長しております。

次に温度コントロールに独自の機能を持つサーモモジュールですが、この製品は幅広い用途が期待されています。とくに自動車関連において「温調シート」としての需要が拡大しています。温調シートは米国アメ

NEWS 1

ロシアのサーモモジュール製造・販売会社の株式を取得

当社は、ロシアのサーモモジュール（ヘルチエ素子）製造・販売会社であるノルド社（本社：モスクワ、社長：セルゲイ・スキピダルフ氏）の株式（全登録株式の95%）を取得し、子会社化いたしました。ノルド社は、サーモモジュール開発・製造会社として14年におよぶ実績があり、現在、世界6カ国で販売を行っております。当社は、ノルド社のサーモモジュールの技術開発力および生産ノウハウに事業拡大の可能性をみて、友好的にノルド社の株式を取得したものです。これにより新規市場への参入による増収をめざします。



セルゲイ・スキピダルフ氏と当社代表取締役社長の山村章

〈ノルド社の概要〉

商号：SCTB NORD（ノルド）
所在地：ロシア連邦モスクワ市
代表者：Ph.D S.Skipidarov（セルゲイ・スキピダルフ）
設立：1991年

従業員：220名
事業内容：サーモモジュール（ヘルチエ素子）の製造・販売
販売先：欧州、日本、韓国

リゴン社がシステムを販売しており、先行するフォードのほかに、ゼネラルモーターズ、トヨタ自動車、日産自動車などで採用され、来年の新型モデルにも搭載が決まり発表されました。今年末から来年にかけて大きく需要が高まり、売上増に貢献すると予想しています。また、人体に良いとされるマイナスイオン発生への用途活用もあって、国内大手家電メーカーの「空気清浄機」で採用されています。サーモモジュールは、小型・軽量でフロンを必要としない環境にやさしい製品で、先端をいくエレクトロニクス産業から家電製品まで幅広い領域での利用が期待される当社の柱となるものです。今後も世界のあらゆる業種業界からの要望に応えたいと考えています。



は薄型テレビやノートパソコンなどで用途が広がる「フルレンジスピーカー」に磁性流体が活用されつつあります。スピーカーの小型化・高音質化の流れの中でさらに需要の拡大が見込まれており、カーコンポ用では、車の振動対策として多くのオーディオスピーカーで磁性流体が使用されています。

Q3 コア技術である〈磁性流体〉の需要面での動きについてはいかがですか？

磁性流体応用製品のひとつである「コンピュータシール」の需要はほぼ終焉しましたが、磁性流体には真空シールをはじめとする様々な需要があります。最近ではバイオメディカル分野で注目され、がん治療に役立つ研究やMRI造影剤などでの利用拡大に期待しています。2005年12月より販売を開始した「バイオメディカル用磁性ナノ粒子キット」は、医療診断材料として世界中の研究機関をマーケットとするものです。また、コンピュータ関連では、大手メーカーのハードディスクドライブ用モーターの流体軸受として新たな需要が出てきました。また、家電オーディオ関連で

Q4 株主価値向上についてはどのような視点をお持ちですか？

業績向上が株主価値を高めることになると考えています。配当についても近い将来には業績連動型の方針を取っていきたいと思います。しかしながら、私たちを取り巻くハイテク産業の進歩は日進月歩のめざましいものがあり、そのビジネスもグローバルで熾烈な競争の渦中にあります。新たなニーズをキャッチして商品にまで築き上げるためには、長い時間を費やす研究開発を行い、低コスト、高品質を実

現する生産体制を確立しなければならず、それには積極的な投資を行わなければなりません。主力となる事業を新規に興す、あるいは現事業を発展させるための投資であり、企業が成長するためには不可欠です。

当社としましては、今後も安定配当を継続していく基本方針に変わりはありませんが、一定の内部留保をしながら企業の成長を優先し、業績の拡大とそれともなう株価の向上が重要と考え努力してまいり所存です。株主の皆様の一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



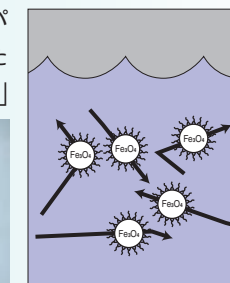
NEWS 2

医療の発展に貢献する「バイオメディカル用磁性ナノ粒子キット」を販売へ

磁性流体は、主に真空シール、コンピュータシールなど半導体やフラットパネルの製造装置で広く利用されています。当社では、このたび磁性流体の新たな活用領域として医薬業界へむけた「バイオメディカル用磁性ナノ粒子キット」を2005年12月より販売を開始しました。このキット製品は、医療診断材料として様々な医療・研究の現場で役立つものと期待されています。当社では、今後、グローバルなネットワークのもと、世界市場をターゲットに積極的に販売を行ってまいります。



バイオメディカル用磁性ナノ粒子キット



磁性流体の模式図

製品紹介

世界のトップシェアを誇る3つのコアテクノロジー

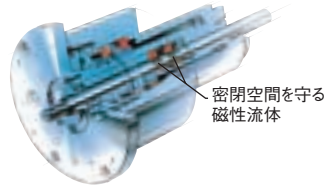
ハイテク産業を中心にその技術革新と進化を支える〈磁性流体応用製品〉〈サーモモジュール〉〈石英ガラス加工製品〉。高い信頼と無限の可能性を秘めたフェローテックの独自の最先端製品群です。

磁性流体応用製品

真空シール

半導体ウェーハや液晶基板の製造においては、密封空間が不可欠です。

こうした真空加工装置の中を完璧な密閉状態にし、回転軸を通じて動力を伝えるのが真空シールの役目です。チリや微粒子などの侵入も防衛し、耐酸性、耐高温性に優れた真空シールの用途は拡大しています。当社の磁性流体を活用した真空シールは、世界のトップシェアを誇っています。



密閉空間を守る磁性流体

防塵シール

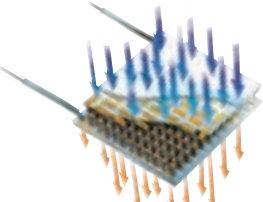
磁性流体は静電気を逃がす導電性機能、高真空装置内へのガス・空気の侵入を防ぐ封止機能、高速での回転精度を実現する潤滑機能、高音域の音質を改善する機能などさまざまな役割を担っています。コンピュータのHDD、半導体・FPD製造装置、HDD検査装置、オーディオスピーカー等に多く採用されています。



サーモモジュール

サーモモジュールは、電流を流すことで温度差を生じさせ、正確な温度調節を実現します。

小型・軽量でフロンを必要としないため、エレクトロニクス、光通信、バイオテクノロジーといった成長分野から病院・ホテル用小型冷蔵庫、ワインセラーまで幅広い領域で採用されています。また、国内外の自動車メーカー向け温調シートの需要が高く、さらなる市場拡大が期待されています。



直流電気を流すと一方の面が吸熱(冷却)し、反対の面が放熱(加熱)する

石英ガラス加工製品

半導体ウェーハや発光ダイオードの製造には、高度な精密加工技術を生かした高純度の石英ガラス製品が必要です。

当社の純度99.99%のシリカガラスからなる石英製品は、半導体メーカーをはじめとするハイテク産業分野で広く活用され、高い信頼を獲得しています。



薬液処理用の洗浄工程に使用されるダブル槽と石英ボード

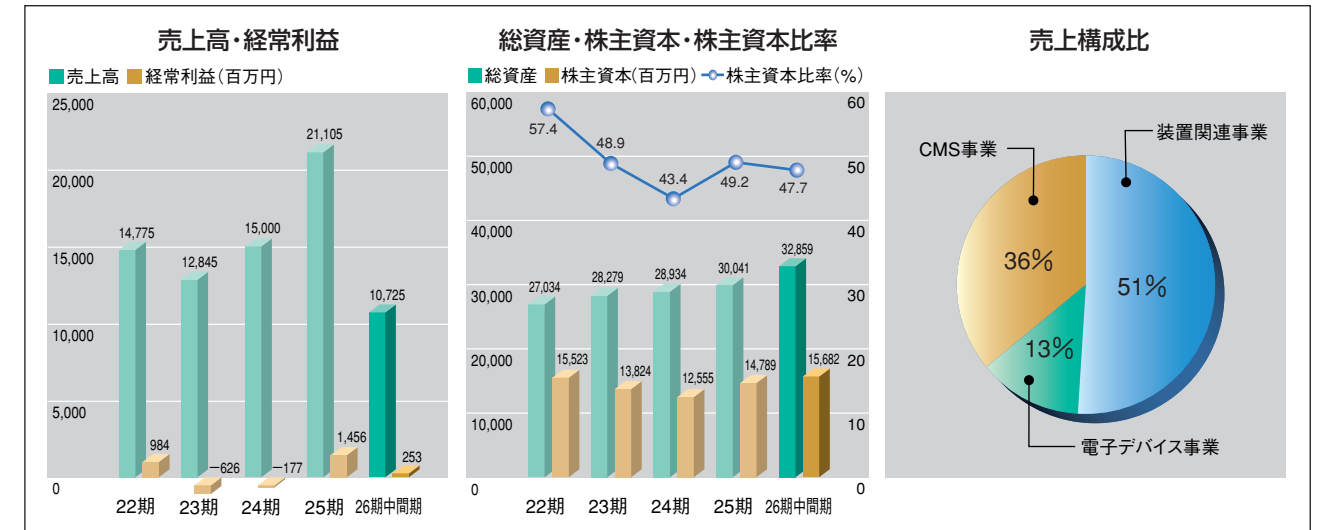
連結財務ハイライト

当中間連結会計期間(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)においては、当社の主たる事業分野であるエレクトロニクス産業が未だ調整局面にあるものの、一部のデジタル家電関連製品では在庫調整が進み、新製品を中心に生産回復の兆しが見えつつあります。これを受けて、半導体及び電子部品関連の設備投資も分野によっては回復の兆しが見えてきました。

当社の装置関連事業における真空シールや石英製品の受注特性は、納入先である半導体・FPD製造装置メーカーから遅れて増加する傾向にあります。一方、電子デバイス事業では、主力製品であったハードディスクドライブ向けのコンピュータシールが業界内におけるFDB(流体動圧軸受)モーターの採用進展に伴い、期初計画どおり減収となりました。CMS事業は、シリコンウェーハ加工などが安定的な成長を続け、前年を上回る堅調な動き

となりました。

期初予想との比較では、CMS事業が予想を上回ったほか、装置関連事業における各製品並びに電子デバイス事業のサーモモジュールも期初予想を上回り、事業別の売上高は、いずれも順調に拡大しています。利益面では、小型案件の増加やプロダクトミックスの変化による装置関連事業の収益性低下から、営業利益は期初予想を下回りましたが、為替が円安基調で推移したことにより経常利益は期初予想を上回りました。中間純利益は、補償金収入の計上を主たる要因として期初予想を上回ることとなりました。当中間期は、売上高が10,725百万円(前年同期比0.5%減)、営業利益が292百万円(前年同期比72.5%減)、経常利益が253百万円(前年同期比73.0%減)となりました。中間純利益は410百万円(前年同期比10.5%減)となりました。



※上記売上高はセグメント間の内部売上高を含みます。

連結貸借対照表

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第26期中間期 平成17年9月30日現在	第25期中間期 平成16年9月30日現在	第25期 平成17年3月31日現在
資産の部			
流動資産	14,276,938	12,735,336	12,599,681
現金及び預金	3,759,958	2,973,452	3,188,815
受取手形及び売掛金	4,879,575	5,261,784	5,065,736
たな卸資産	3,383,873	3,037,798	2,922,602
その他	2,364,658	1,624,658	1,575,815
貸倒引当金	△111,128	△162,357	△153,287
固定資産	18,582,227	17,257,572	17,441,927
有形固定資産	12,050,451	11,156,329	11,190,556
建物及び構築物	4,011,718	3,425,943	3,047,344
機械装置及び運搬具	4,088,978	3,630,709	3,608,437
工具器具備品	1,052,511	1,033,021	955,263
土地	2,548,251	2,601,404	2,552,187
建設仮勘定	348,991	465,248	1,027,323
無形固定資産	3,242,884	2,450,896	2,642,694
営業権	2,019,015	1,747,687	1,943,271
連結調整勘定	520,064	199,427	177,280
その他	703,803	503,781	522,142
投資その他の資産	3,288,891	3,650,347	3,608,676
投資有価証券	1,376,004	1,315,873	1,558,071
その他	2,290,384	2,364,970	2,211,180
貸倒引当金	△377,497	△30,496	△160,575
資産合計	32,859,165	29,992,909	30,041,608

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第26期中間期 平成17年9月30日現在	第25期中間期 平成16年9月30日現在	第25期 平成17年3月31日現在
負債の部			
流動負債	11,096,275	10,738,650	9,548,363
支払手形及び買掛金	2,042,337	2,377,856	1,840,305
短期借入金	3,248,974	3,768,706	3,093,292
一年内返済予定長期借入金	2,781,284	2,361,409	2,219,172
賞与引当金	138,272	136,209	134,247
その他	2,885,406	2,094,468	2,261,345
固定負債	6,020,336	6,394,641	5,620,567
転換社債型新株予約権付社債	1,776,643	1,776,643	1,776,643
長期借入金	3,916,613	4,448,125	3,637,991
退職給付引当金	29,993	29,099	30,114
役員退職慰労引当金	113,699	110,049	114,500
その他	183,385	30,722	61,317
負債合計	17,116,611	17,133,291	15,168,930
少数株主持分			
少数株主持分	60,153	45,801	83,423
資本の部			
資本金	6,910,461	5,871,661	6,910,461
資本剰余金	7,784,251	6,747,159	7,784,251
利益剰余金	1,009,755	615,351	762,141
その他有価証券評価差額金	308,993	117,204	153,732
為替換算調整勘定	△170,948	△377,447	△661,220
自己株式	△160,112	△160,112	△160,112
資本合計	15,682,400	12,813,816	14,789,254
負債、少数株主持分及び資本合計	32,859,165	29,992,909	30,041,608

連結損益計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第26期中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	第25期中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	第25期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	10,725,952	10,783,567	21,105,746
売上原価	7,805,895	7,366,197	14,423,382
売上総利益	2,920,057	3,417,370	6,682,364
販売費及び一般管理費	2,627,102	2,353,904	4,920,338
営業利益	292,954	1,063,466	1,762,026
営業外収益	275,304	236,226	244,791
営業外費用	314,316	359,403	550,187
経常利益	253,942	940,289	1,456,630
特別利益	784,901	72,263	212,813
特別損失	272,092	282,726	458,768
税金等調整前中間(当期)純利益	766,751	729,826	1,210,674
法人税、住民税及び事業税	376,898	243,682	182,238
法人税等調整額	4,556	6,513	350,687
少数株主利益又は損失(△)	△24,870	21,438	43,967
中間(当期)純利益	410,166	458,191	633,780

連結剰余金計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第26期中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	第25期中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	第25期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	7,784,251	6,700,406	6,700,406
資本剰余金増加高			
増資による新株発行	—	46,753	1,083,845
資本剰余金中間期末(期末)残高	7,784,251	6,747,159	7,784,251
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	762,141	293,249	293,249
利益剰余金増加高			
中間(当期)純利益	410,166	458,191	633,780
利益剰余金減少高			
配当金	159,331	136,089	136,089
取締役賞与	3,220	—	—
その他	—	—	28,799
利益剰余金中間期末(期末)残高	1,009,755	615,351	762,141

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科 目	第26期中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	第25期中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	第25期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,241,640	1,070,927	2,149,121
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,329,682	△953,917	△2,349,524
財務活動によるキャッシュ・フロー	639,366	△251,288	273,349
現金及び現金同等物に係る換算差額	19,819	△15,802	△7,663
現金及び現金同等物の増加額	571,143	△150,080	65,282
現金及び現金同等物の期首残高	3,188,815	3,123,532	3,123,532
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	3,759,958	2,973,452	3,188,815

個別貸借対照表

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第26期中間期 平成17年9月30日現在	第25期中間期 平成16年9月30日現在	第25期 平成17年3月31日現在
資産の部			
流動資産	6,898,742	6,550,146	5,864,097
現金及び預金	929,527	727,319	1,122,616
受取手形及び売掛金	2,486,443	2,275,319	2,165,414
その他	3,482,770	3,547,508	2,576,067
固定資産	17,478,065	16,277,120	16,990,375
有形固定資産	2,929,561	2,978,413	2,954,704
無形固定資産	6,826	7,572	8,001
投資その他の資産	14,541,678	13,291,134	14,027,669
資産合計	24,376,807	22,827,267	22,854,472
負債の部			
流動負債	4,743,898	5,958,227	4,259,700
支払手形及び買掛金	1,420,505	1,262,909	1,015,261
短期借入金(※)	1,587,784	3,470,284	2,186,884
その他	1,735,608	1,225,034	1,057,554
固定負債	4,071,954	3,801,411	3,268,219
転換社債型新株予約権付社債	1,776,643	1,776,643	1,776,643
長期借入金	2,152,676	1,915,460	1,378,518
その他	142,634	109,307	113,057
負債合計	8,815,853	9,759,638	7,527,919
資本の部			
資本金	6,910,461	5,871,661	6,910,461
資本剰余金	7,545,239	6,508,147	7,545,239
利益剰余金	956,372	730,728	877,231
その他有価証券評価差額金	308,993	117,204	153,732
自己株式	△160,112	△160,112	△160,112
資本合計	15,560,954	13,067,629	15,326,553
負債・資本合計	24,376,807	22,827,267	22,854,472

※1年以内返済予定長期借入金を含む。

個別損益計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第26期中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	第25期中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	第25期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	4,894,442	4,625,413	8,927,634
売上原価	3,888,725	3,340,504	6,623,943
売上総利益	1,005,717	1,284,909	2,303,690
販売費及び一般管理費	1,059,916	1,017,541	1,950,873
営業利益	△54,199	267,367	352,817
営業外収益	106,589	101,788	452,152
営業外費用	42,870	72,623	159,954
経常利益	9,519	296,533	645,015
特別利益	749,180	25,090	263,541
特別損失	220,477	156,398	372,974
税引前中間(当期)純利益	538,222	165,224	535,582
法人税、住民税及び事業税	299,750	81,352	5,349
法人税等調整額	—	—	299,856
中間(当期)純利益	238,472	83,872	230,376
前期繰越利益	717,900	645,944	645,944
中間(当期)未処分利益	956,372	729,816	876,320

会社概要

(平成17年9月30日現在)

商号 株式会社フェローテック
 (英文表記) Ferrotec Corporation
 設立 昭和55年9月27日
 資本金 69億1,000万円
 株式公開 JASDAQ 平成8年10月18日(証券コード:6890)
 決算期 3月31日
 従業員数 125名
 事業所 本社 〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14
 関西営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町4-6-17 本町KGビル8F
 千葉テクニカルセンター 〒289-2131 千葉県八日市場市みどり平1-4
 千葉県匝瑳市みどり平1-4 (2006年1月23日より)

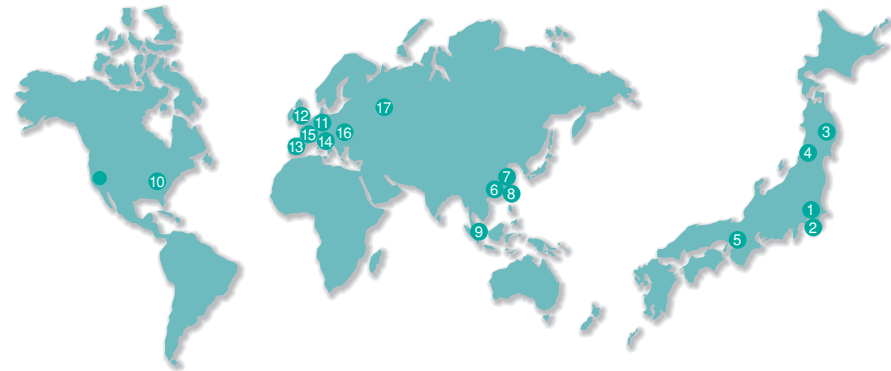
役員

(平成17年9月30日現在)

代表取締役社長 山村 章
 常務取締役 賀 賢漢
 取締役 橋 誠
 取締役 濱本 浩志
 取締役 椿 勲
 取締役 山根 威人
 常勤監査役 松井 宏之
 監査役 中元 紘一郎
 監査役 明石 俊夫

グローバルネットワーク

(平成17年9月30日現在)



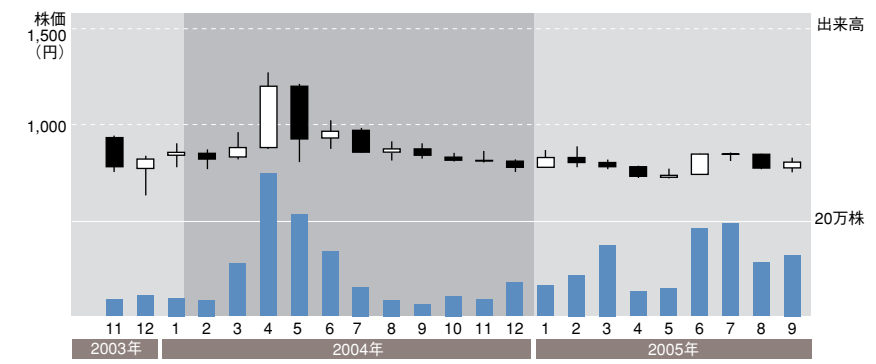
国内

- ① 株式会社フェローテック(東京)
- ② 株式会社フェローテックシリコン(東京)
- ③ 株式会社フェローテック精密(岩手)
- ④ アリオンテック株式会社(山形)
- ⑤ 株式会社フェローテッククオーツ(大阪)

海外

- ⑥ 杭州大和熱磁電子有限公司(中国杭州市)
- ⑦ 上海申和熱磁電子有限公司(中国上海市)
- ⑧ 上海漢虹精密機械有限公司(中国上海市)
- ⑨ Ferrotec Corporation Singapore Pte. Ltd. (シンガポール)
- ⑩ Ferrotec (USA) Corporation (アメリカ)
- ⑪ Ferrotec GmbH (ドイツ)
- ⑫ Ferrotec Ltd. (イギリス)
- ⑬ Ferrotec S.A. (スペイン)
- ⑭ Ferrotec S.R.L. (イタリア)
- ⑮ Ferrotec SARL (フランス)
- ⑯ Ferrotec Engineering SRL (ルーマニア)
- ⑰ SCTB NORD (ロシア)

株価/出来高の推移



- ・磁性流体の設計・開発、製造及び技術情報の提供
- ・磁性流体応用製品の設計・開発、製造及び技術情報の提供
- ・サーモモジュールの設計・開発、製造及び技術情報の提供
- ・半導体材料の製造

JQA-QMA9129
JQA-EM4428